

|       |                          |       |        |      |  |
|-------|--------------------------|-------|--------|------|--|
| 事業名   | 薬物乱用対策推進費                |       |        | 調書番号 |  |
| 細事業名  | 薬物関連問題相談事業費              | 財務コード | 087304 | 58   |  |
| 担当部課室 | 福祉保健 部 衛生薬務 課 薬務 担当 (内線) | 3453  |        |      |  |

## I 事業の概要

| 実施期間   | 始期 H12 年度 ~ 終期 年度  |   |                 |              |  |   |   |
|--|--|---|-----------------|--------------|--|---|---|
| 実施主体   | 県(直営)  |   |                 |              |  |   |   |
| 目的   | <table border="1"> <tr> <th>だれ(何)を対象に</th> <th>その対象をどのような状態にして</th> <th>結果、何に結びつけるのか</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>薬物乱用当事者、その家族など</li> <li>一般県民、中・高校生</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>薬物乱用者の社会復帰できる</li> <li>薬物乱用防止のための理解が深まる</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>薬物乱用者、中毒者の社会復帰</li> <li>薬物依存者の減少</li> <li>薬物乱用の未然防止</li> </ul> </td> </tr> </table>  | だれ(何)を対象に   | その対象をどのような状態にして | 結果、何に結びつけるのか | <ul style="list-style-type: none"> <li>薬物乱用当事者、その家族など</li> <li>一般県民、中・高校生</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>薬物乱用者の社会復帰できる</li> <li>薬物乱用防止のための理解が深まる</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>薬物乱用者、中毒者の社会復帰</li> <li>薬物依存者の減少</li> <li>薬物乱用の未然防止</li> </ul> |
| だれ(何)を対象に  | その対象をどのような状態にして  | 結果、何に結びつけるのか  |                 |              |  |   |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>薬物乱用当事者、その家族など</li> <li>一般県民、中・高校生</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>薬物乱用者の社会復帰できる</li> <li>薬物乱用防止のための理解が深まる</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>薬物乱用者、中毒者の社会復帰</li> <li>薬物依存者の減少</li> <li>薬物乱用の未然防止</li> </ul> |                 |              |  |   |   |
| 内容   | <ul style="list-style-type: none"> <li>①薬物関連相談事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>各保健所、精神保健福祉センターにおける薬物相談窓口の開設、事業の周知、相談の実施(5保健所、精神保健福祉センター)。</li> <li>薬物問題に悩む当事者及びその家族等への適切な指導を行うことにより、社会復帰に向けた支援を行う。</li> </ul> </li> <li>②薬物乱用防止に関する講演会 <ul style="list-style-type: none"> <li>中学生、高校生を対象として、専門医師(精神科医)による薬物乱用防止に関する講演の開催(年2回)</li> </ul> </li> <li>③薬物関連問題専門研修会 <ul style="list-style-type: none"> <li>医療・保健・福祉等薬物関連問題に携わる職員の資質向上を図るための研修会の開催(年1回)</li> </ul> </li> </ul> |   |                 |              |  |   |   |

## II 事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

| 区分          | 指標                 | 25年度   | 26年度      | 27年度     | 28年度     | 29年度      | 30年度      | 31年度    |        |
|-------------|--------------------|--------|-----------|----------|----------|-----------|-----------|---------|--------|
| 活動指標        | 相談件数(延べ人数)         | 目標     | 135人/2校   | 143人/2校  | 141人/2校  | 37人/2校    | 51人/2校    | 63人/2校  | 63人/2校 |
|             |                    | 実績(見込) | 143人/2校   | 141人/2校  | 37人/2校   | 51人/2校    | 63人/2校    | 63人/2校  |        |
|             | 中・高生を対象とした講演会の開催校数 | 達成率    | 105.9/100 | 98.6/100 | 26.2/100 | 137.8/100 | 123.5/100 | 100/100 |        |
|             |                    | 達成区分   | b         | b        | d        | a         | a         | a       |        |
| 成果指標        | 検挙者数に対する相談件数       | 目標     | 45人       | 40人      | 42人      | 44人       | 39人       | 34人     | 34人    |
|             |                    | 実績(見込) | 143人      | 141人     | 37人      | 51人       | 63人       | 63人     |        |
|             |                    | 達成率    | 317.8     | 352.5    | 88.1     | 115.9     | 161.5     | 185.2   |        |
|             |                    | 達成区分   | a         | a        | b        | b         | a         | a       |        |
| 決算(予算)単位:千円 |                    | 194    | 227       | 122      | 160      | 140       | 260       | 260     |        |

## III 事業の評価(平成29年度の業績評価)

|      |   |   |
|------|---|---|
| 活動指標 | a | <ul style="list-style-type: none"> <li>相談件数の目標は、前年度の実績とする。増減があるものの、相談内容は深刻なものも多く、窓口は必要とされていると考える。</li> <li>平成27年度以前は危険ドラッグ関連の相談が多く、平成26年12月に法律が改正され所持が禁止されたため、一旦相談が減ったものの、大麻等の検挙件数が増えるに従い相談も増加している。</li> <li>学校からの講演会の開催依頼は、毎年度2校以上からあり、必要とされている事業だと考えている。</li> </ul> |
| 成果指標 | a | 達成率: 全国では薬物事犯検挙者数の半数が相談窓口利用者数となっていることから前年度の県内検挙者数の50%とする。目標34人(検挙者68人)に対し相談件数63人と高い割合を示しており県内での検挙者数も全国と同様、大麻件数が増加している。今後、全国と同様に若者の間で広がっていくのであれば、更に相談できる窓口の需要は高まると思われる。  |

・「活動指標、成果指標の達成率」から事業の活動量、成果に係る一次評価の考え方を記載すること。  
 ・指標がない場合や指標を補足する必要がある場合には、指標によらない成果を用いて記載すること。

## IV 見直しの必要性(平成31年度に向けた改善等の考え方)

|           |    |   |
|-----------|----|---|
| 県関与の必要性   | 判定 | <input checked="" type="checkbox"/> 必要性が高い <input type="checkbox"/> 必要性がある程度認められる <input type="checkbox"/> 必要性が低い   |
|           | 説明 | <input checked="" type="checkbox"/> 社会経済環境の変化により、当該事務事業が解決すべき課題が増えている、増えることが予想される<br><input type="checkbox"/> 事業の拡大や充実を求める意見・要望が増えている<br><input type="checkbox"/> 法令等により、県が実施することが義務づけられている<br><input checked="" type="checkbox"/> 県が実施しないと、県民生活に深刻な影響が生じる<br><input type="checkbox"/> 民間が実施した場合、現在のサービス水準を維持することが、収益性や技術面で困難である。<br><input type="checkbox"/> その他 ( ) |
| 有効性(成果向上) | 判定 | <input type="checkbox"/> 大幅な成果向上が可能 <input type="checkbox"/> 成果向上が可能 <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上はあまり望めない   |
|           | 説明 | 薬物の乱用防止は、草の根運動として、継続的に行うことが重要である。目に見える成果は示せないものの、県民が相談できる窓口は必要不可欠である。   |
| 見直しの余地    | 判定 | <input type="checkbox"/> 見直す余地がある <input type="checkbox"/> 見直す余地がある程度ある <input checked="" type="checkbox"/> 見直す余地がない  |
|           | 説明 | <input type="checkbox"/> 民間委託や指定管理者制度の活用など事業手法の見直しの余地がある<br><input type="checkbox"/> 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある<br><input type="checkbox"/> サービスの対象、水準、内容を見直す余地がある<br><input type="checkbox"/> 実施体制(事業間・組織間の連携や事務分担など)を見直す余地がある<br><input type="checkbox"/> 投入したコストに見合った効果が現れておらず、効果向上やコスト削減を検討する余地がある<br><input checked="" type="checkbox"/> その他 ( )          |
| その他       | 説明 | 薬物全体の検挙者数は減少傾向があるものの、大麻事犯は増加していること、薬物の再犯率が50%を超えていることなどから、今後も相談窓口を維持していく必要がある。相談を県が直営で行うのであれば、定期的な職員の研修は必須で有り、また、この様な内容を受けてくれる外部団体等もないため、見直す余地はないと考える。  |
| 見直しの必要性   | 無  | 薬物全体の検挙者数は減少傾向があるものの、大麻事犯は増加していること、薬物の再犯率が50%を超えていることなどから、今後も相談窓口を維持していく必要がある。また、相談数に対応するため、職員の資質向上の研修についても引き続き積極的に行う必要がある。   |

## V 見直しの方向(平成31年度当初予算等での対応状況)

|       |    |
|-------|----|
| 現行どおり | 説明 |
|-------|----|

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、IV見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。見直しがない場合は「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。